

【樹木の部屋】

マサキ (ニシキギ科ニシキギ属 *Euonymus japonicus*)

和名：マサキ (柎、正木)

別名：オオバマサキ、ナガバマサキ、コバマサキ、ボウシュウマサキ 他

英名：Evergreen euonymus

ニシキギ目 常緑低木

原産地：日本、中国、朝鮮半島

花言葉：厚遇 **花の色**：白



← 写真-1 マサキ

撮影日：2015年06月20日

撮影場所：大和民族公園

(大和郡山市)にて

撮影者：M さん

→ 写真-2 マサキの花

撮影日：2015年06月20日

撮影場所：大和民族公園

(大和郡山市)にて

撮影者：M さん



大和郡山市にある大和民族公園を訪れた際、生垣として利用されていました。

年中青い葉を付けているので、「真青木」(まさおき)を語源とし、マッサオキ→マサオキ→マサキに変化したという説があるそうです。

耐陰性が強く、排気ガスなどの大気汚染や潮風にも比較的強く生長が早く、強い剪定にも耐えるので、庭の縁取りのような低い生け垣から境界になるような高めの生け垣、球形に刈り込んだ玉物仕立てなどにできます。また、枝を切る作業を最小限にとどめて自然に近い樹形でも楽しめます。

管理ですが、生長が非常に早いので年に2~3回刈り込みを行って樹形を整えます。刈り込みは基本的に春から秋に適宜行いますが、新枝の出始める時期と

真夏は避けます。花や実を楽しみたい場合は開花前の刈り込みも避ける必要があります。

若木のうちは勢いよく伸び、間延びした枝は早めに付け根から切り落とし、あとは好みの樹形に刈り込んでいきます。樹形の整っている株は、はみ出た枝を刈り込んで樹形を保ちます。刈り込みに強いので、時期さえ間違わなければ多少短く刈り込んでしまっても枯れることはほとんどありません。

ただし、夏～秋に刈り込みを行うと、その後出てきた若い芽が強い直射日光で日焼けを起こして、枝が枯れる恐れがあるので、この時期は刈り込みや枝をたくさん切る作業は避けること。

斑入りの品種でも、時々斑の入っていない緑葉の枝が出てきます。そのままにしておくと 木の中に緑色の部分が目立つようになり全体の美観が崩れてくるので、斑の入っていない枝は早めに切り落とすこと。

古株は、思いきり枝を短く切り詰めて新しい枝を出させて株の若返りを計ると良い。作業は新芽の出る直前3月頃が適しています。

<ちょっと一言>

- * オウゴンマサキ、ギンマサキ、斑入りギンマサキなど、カラーリーフとして庭のアクセントになるようなものもあるそうです。